



編集責任者
松本幸雄



皆様、明けましておめでとうございます。昨年は大変お世話になり、心より感謝しております。今年も経済環境は厳しいですが、このピンチをチャンスにして頑張りたいと思っています。今年も、どうぞよろしくお祈りいたします。

【 お 願 い 】

いつも「マネジメントニュース」をご覧いただきまして、誠に有難うございます。
来る平成22年3月より、誠に勝手ながら当マネジメントニュースをメールでの配信とさせていただくことになりました。現在、郵送させていただいているお客様で引き続き送付をご希望される場合は、2月20日(土)までに下記の弊社メールアドレスまで、お客様のメールアドレスをご連絡いただければ幸いです。
《お問い合わせ先》 E-mail : info@isommc.com 担当 : 岡野

これからの有望分野

不況の陰は、昨年から今年も続きそうです。このような場合、単に従来の仕事がいつか回復することだけを毎日お祈りするだけでは、会社として致命傷になる場合があります。積極的に新分野への進出を検討されてはいかがでしょうか。今後成長が期待できる分野について紹介します。

(1) 環境分野

アメリカのオバマ大統領が「グリーンニューディール政策」を掲げて、地球温暖化対策が一躍世界の注目を浴びるようになりました。具体的には、太陽光電池や自動車用電池などの新エネルギー市場が本格的に立上がりつつあります。アメリカでは、2008年に比較して2010年には、太陽光発電需要は2倍以上になる見通しです。また、国内では京セラ、三洋電機をはじめとして各企業が最も力を入れている分野の一つです。これに関連して、原子力発電や風力発電の需要も石油エネルギーに変わる電力として世界的に拡大しています。

自動車用電池については、ハイブリッド車や電気自動車の重要な基幹部品としての位置づけで、今後大きな期待がされている分野です。実際、トヨタのプリウスは販売台数トップを確保してさらに快走見込みです。また、三菱自動車をはじめとする電気自動車も大きな注目を浴びており、石油資源の枯渇問題を考えると今後の成長は疑いがないところではないでしょうか。

(2) 航空機・宇宙分野

次に紹介したいのは、航空機・宇宙分野の産業です。この分野は日本が技術的に優位にたっている分野の一つであり、世界的にも今後需要が広がる分野となっています。この業界は安全性や品質レベルの高さが求められるため、技術力の高い中小企業が現在の仕事の受注価格低下の歯止めとして、参入するケースが多く見受けられます。

御社での技術力が平均以上で高精度部品・複雑形状部品・難削材部品の加工が可能であれば、ぜひ、これからも伸び続ける航空機・宇宙分野への参入に挑戦されてはいかがでしょうか。

がでしょうか。技術力に自信のある会社向けの分野と云えましょう。

生き残る経営

1. 伸びる分野に進出する！

2. 自社の強みを活かす・育てる！

3. 経営戦略を立てて実行する！

(3) 医療・介護分野

日本の高齢化は世界でトップを走っており、2010年には65歳以上の高齢者が全人口の22%で2800万人にも達します。今後2025年のピーク時3500万人まで大幅に増加し、その後安定します。

以上の状況から医療費及び介護費の大幅な増加が今後見込まれ、現に介護費用は2000年に3.6兆円であったものが2009年で7兆円と倍増しています。このような高齢化社会の対応・貢献は企業としての社会的な役割からも必要ではないでしょうか。

(4) 成功事例

茨城県高萩市にある精密機械加工会社T社(従業員26名)は、従来の弱電関係の量産部品から転換して、原子力、航空機・宇宙分野と医療機器分野の製品を製造して、大きく飛躍しています。キーポイントは、「量産体制から他品種少量生産」で従来の製造業の発想を転換して、安く量の多い物から、付加価値の高い少量生産品へ移行したことです。また、一社当たりの受注金額を20%以下に抑えて会社の命運を左右する、親会社を持たない方針で経営の安定に成功しています。(担当:松本)

エコアクション21



ガイドライン改訂！！

平成21年11月30日に、環境省から「エコアクション21ガイドライン2009年版」が公表されました。

(担当：米原)

1. ガイドライン改訂のポイント

- (1) 環境経営システムの項目に「**取組の対象組織・活動の明確化**」が追加された。
- (2) 「**化学物質の使用量**」の把握が必須に。
(化学物質を取り扱っている場合)
- (3) 必須の環境目標として3項目が追加。
化学物質使用量の削減
(化学物質を取り扱っている場合)
グリーン購入
自らが生産・販売・提供する製品及びサービスに関する環境配慮
- (4) 環境レポートに記載する事項に5項目が追加され、9項目となった。

2. 2004年版からの移行期間

平成22年6月1日から平成23年5月31日までが移行期間となります。但し、**業種別ガイドラインを適用している事業者**(産業廃棄物処理業者など)は平成23年4月1日から平成24年3月31日までとなります。
この間の審査では、2009年版の追加要求に対応していなくても認証されますが、その後の審査までには対応しておく必要があります。

改訂内容の詳細は、下記をください。

エコアクション21中央事務局

<http://www.ea21.jp/>



小規模企業の ISO成功事例

今回は、ISO27001認証取得に取り組み、情報セキュリティの向上だけでなく、**業務の効率改善に成功**した会社の事例をご紹介します。

ISO27001(情報セキュリティマネジメントシステム)に取り組む際には、まず、「**情報資産**」の洗い出しを行います。情報資産とは、顧客情報や販売情報などの情報そのもののほか、紙や電子データファイルなど会社が持っている情報全般を指します。

従業員数20名程のソフトウェア業の会社でのこと。まず、会社の中にどのような情報資産があるのかを調べるところから始まりました。

業種がら、仕様書などの書類やプログラムライブラリなどの電子データが大量にありました。



～情報の整理で業務改善！～

(担当：齋藤)



情報資産の現物を確認しながら一覧表にまとめてみると、同じ分類の書類が社内のあるところに分散して保管されていたり、使わない古い書類が「いつか使うだろう」という思いだけで山積み保管されていることが判明しました。また、ファイルサーバに保管されているデータも、何の決まりもなく、担当者の気まぐれで保管されていたため、何があるのか分からず、探す手間が非常に掛かっていることも判明しました。

早速、分類を作って整理したところ、図書館のように整理され、必要なときに必要なものが取り出せるようになり、業務効率を格段に向上させることができました。

業務内容

ISO・Pマーク

ISO9001/ISO14001/
ISO22000/ISO27001/
Pマーク(JISQ15001)

経営戦略・事業計画

経営戦略・事業計画、
営業計画・売上利益計画

社員教育・業務改善

業務改善、問題解決力、
リーダーシップ、目標管理、
営業のポイント、コミュニケーション

配布がご不要の方は、失礼いたしました。下記にご一報頂ければ配布の停止をさせていただきます。

TEL: 029-246-4671 FAX: 029-246-4672 E-mail: info@isommc.com